

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和元年6月7日現在

機関番号：32612

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K03124

研究課題名(和文) 植民地時代メキシコの支払手段と商品流通の多元的理解：商業帳簿からの検討

研究課題名(英文) Variety of Payment Methods and Goods Traded in Colonial Mexico: An analysis of accounting records

研究代表者

伏見 岳志 (FUSHIMI, Takeshi)

慶應義塾大学・商学部(日吉)・准教授

研究者番号：70376581

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：スペイン領メキシコで取引されていた商品とその支払いに使われたモノを、主として商人が作成した帳簿に依拠することを目指した。

スペイン植民地研究において、商人の帳簿は、未活用の資料であるため、まず帳簿の収集をおこない、その研究方法について模索した。それぞれのフォーマットについて研究した結果、フォーマットの地域や時代的なばらつきがあきらかになり、そのうち比較的フォーマットが類似するものを選んで、その内容のデータベース化を試みた。その結果、特定の有力商品を中心に分析する従来のアプローチでは捨象されている、各種商品の小額の取引や、貨幣以外の支払いが総量としては無視できないことがわかった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

植民地メキシコの貿易品では銀が重要視されている。しかし、銀には多様な流通形態があるうえに、銀以外にも多種の商品が取引されているため、そうした多様性のなかで銀の役割を再検討する必要がある。そこで、この研究では、そうした多様な商品や支払い手段が詳細に記録されている、商人の作成した帳簿に依拠しながら、この多様性を解明することを試みた。その成果としては、(1)従来未活用だった商業帳簿の特徴を明らかにし、その利用法を考案したこと、(2)銀貨で記載されていても、実際に銀貨で決済されていないケースが多いこと、(3)多様な小額取引があり、その総量は無視できない規模であること、が挙げられる。

研究成果の概要(英文)：The research intends to analyse the means of payments and the goods traded in Spanish Mexico, relying mainly on the accounting records kept by merchants.

Because such accounting books have not been conserved systematically and their importance is neglected by the Spanish colonial historians, the first step of this research consists in collecting these records dispersed widely in various archives. The second step is aimed at understanding the characteristics of the collected materials and establishing methods of analysis. This examination reveals the great divergence of their formats depending on their time periods and regions. For our convenience, we selected the records with relatively similar formats, so that we could extract the homogeneous data. Finally, we analyse those data and find the importance of numerous products traded in small quantity and variety of payment methods used in such transactions.

研究分野：中南米史、大西洋史

キーワード：メキシコ史 会計史 植民地

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

スペイン領アメリカの商業的取引に関する研究では、銀をはじめとする貴金属の採掘・精錬・加工・取引に関する分析が主軸となる傾向があった。銀は、スペイン領アメリカ地域において最重要の生産物であり、しかも世界規模で流通して、大きな影響力を持っていたため、この生産物に注目が集まったのは当然のことである。しかし、ここ数十年の間に、ひとつの地方の社会経済を文書館史料に依拠して実証的に研究したモノグラフが多く発表されるようになり、より精度の高い地方史理解が進展するようになると、貴金属以外の商品が重要である地域も多いことが指摘されるようになった。さらに、物質文化やグローバルヒストリーへの関心の高まりによって、コチニール染料、カカオ、タバコ、といった多様な商品のグローバルな流通にも目が向けられるようになり、貴金属以外の商品流通への理解も深まりつつある。以上のような研究の流れは、貴金属流通を中心としない植民地社会経済のありかたを理解することを可能にしている。しかし、こうした研究群は、ひとつの地域、もしくはひとつの商品に限定した分析に留まっている、という限界を抱えている。このため、複数の地域にまたがる研究や、流通する商品の多様性に着目することで、商品流通のより総合的な理解を図ることが、求められるようになっている。

2. 研究の目的

1. のような背景を踏まえ、本研究では、メキシコのいくつかの地域の商業的特徴を、商品流通の多様性に着目しながら、解明することを目指した。そのために、特定の地方を選び出し、その地方で銀以外にはどのような商品が生産・消費・取引されているのか、を把握することを試みた。さらに、それぞれの商品が、ほかの商品と比較してどの程度流通しているのか、さらには、それぞれの商品が、その地方のどこでどのように生産されているのか、あるいはどこから持ち込まれ、どのように消費されているのか、といったことについての理解を深めることを目指した。

3. 研究の方法

多様な商品流通を理解するためには、そのような多様な商品取引が記録されている史料に依拠することが必要となる。そのような性格を持つ史料として、本研究が依拠したのは、商人の作成した帳簿類である。従来の研究の多くは、ある地方の特徴を知るために、徴税記録に基づく分析をおこなっていたが、この記録は課税を免れている商品や、あるいは取引規模が少ないために記録されない商品や、申告を怠った取引などは反映されていない、という問題点がある。いっぽう、商業帳簿は、地方全体を俯瞰することは難しいが、少なくとも取引の現場を仔細に眺め、そこで取引されている商品のすべてを知ることができる、という利点がある。したがって、今回のように商品の多様性に主たる関心がある場合には、利用価値が高い史料だと判断される。ただし、商業帳簿は、あまり現存していないこともあり、スペイン領アメリカ研究では、組織的に活用されたことがない。このため、まずそのような帳簿類を収集し、各帳簿の作成法を理解したうえで、その記載内容をデータベース化することを試み、そのデータを分析することを目指した。

4. 研究成果

(1) 帳簿収集：研究代表者は、アメリカ合衆国オクラホマ州タルサ大学付属ヘルムリッチ研究所、スペインの国立歴史文書館、国立図書館、海軍博物館(マドリード)、インディアス文書館、セビリア県立図書館(セビリア)、ブルゴス県立文書館(ブルゴス)、シモン・ルイス財団(メディーナ・デル・カンポ)、メキシコの国立総合文書館、が所蔵する帳簿資料の閲覧、撮影、複写、収集に努めた。実際に訪問することに加え、オンラインで閲覧可能な史料の閲覧・収集にも努めた。いっぽう、研究分担者は、グアテマラの中米総合文書館、メキシコの国立人類学歴史学研究所図書館と大学院大学付属図書館、スペインのインディアス文書館(セビリア)、国立文書館貴族部門(トレド)で帳簿及び関連史料の閲覧、複写をおこなった。以上のような調査によって、16-17世紀のメキシコ市、プエブラ市、グアダラハラ、チアパス地方の商業帳簿に加えて、この新大陸側の帳簿との比較対象であると同時に、取引相手でもスペイン側のブルゴス、メディーナ、マドリード、セビリアの帳簿の情報を収集することができた。

(2) 帳簿作成法の比較検討：(1)の帳簿収集と並行して、各帳簿のフォーマットの特定につとめた。そのために、マドリード国立図書館に所蔵されている会計史関連の書物の閲読をおこなった。さらにスペイン会計学会の会員、タルサ大学付属ヘルムリッチ研究所員と意見交換をおこなった。その結果、スペイン北部で収集した帳簿の多くは16世紀後半に作成されたものであること、その多くが複式簿記法に則っていることが判明し、しかもこの作成法がかなり広く普及していることが確認できた。こうした基礎的事実に確認に加えて、ブルゴスやメディーナで作成された帳簿において、複式簿記法が具体的にどのように活用されているかを検討した。その結果、双方に共通するルールがあるいっぽうで、商品名や仕訳項目、単位などにばらつきがあることが判明した。したがって、一定のルールは共有されているものの、帳簿ごとあるいは商人ごとに異なる個別の特徴が考慮する必要性が明確になった。

以上の作業と並行して、メキシコ側の帳簿や、その由来元であると思われるセビリアの帳簿

を、スペイン北部の帳簿と比較する作業をおこなった。その結果、16世紀スペイン北部の帳簿と、17世紀セビリアおよびメキシコの帳簿では、作成法がまったく異なるという結論が得られた。具体的にメキシコやセビリアで17世紀に作成された帳簿は、複式簿記法に則ったものではなく、取引相手ごとに債務債権を整理した、いわゆる人名勘定方式が採用されていることがわかった。これは、先行研究ではまったく指摘されていない、新しい発見であるため、スペイン会計学会で報告をおこなった。

続いて、セビリアとメキシコの帳簿の比較をおこなった。その結果、数や重さ、貨幣の単位や記載法については、ヴァリエーションが大きいことが分かった。また、メキシコの帳簿は体系的に保存されておらず、たとえば複数作成された帳簿のうちの一冊だけが保存されていたり、その一冊にも脱落ページがあったり、そもそも製本されないままのバラバラの紙に記載されているために散逸しているものも多く、体系的な情報分析が難しいことも明確になった。

(3) データベースの構築：(2)の結果から、どのようなデータベースの設計が可能なのかを検討した。まず、スペイン北部とメキシコの帳簿フォーマットでは大きく異なるため、両者を同一フォーマットのデータベースで扱うことは難しいと判断し、今回のデータベース設計にはスペイン北部のものは含めないことにした。また、メキシコ側では、氏名や商品名、さらに重さや長さの単位にヴァリエーションがあるため、それぞれの表記を入力する欄だけでなく、便宜的な統一名称や単位に還元・換算することを決めた。この調整を加えて、取引者氏名、取引相手名、商品名、還元した商品名、商品量（実際の単位と、換算後の単位）、価格情報、支払い形態、取引相手、日付、場所の情報を共通項目として、データベース入力することをおこなった。

とくに手間がかかったのは、商品名の集約と、貨幣単位の解明である。前者については、商品は、取引者によって、分類の細かさが異なるため、これをひとつの商品に集約すると地方の特性が失われるためである。したがって、単純に商品名を入力するわけにはいかず、現実にその地方でどのような生産体制が構築されており、商品の区別にどのような意義があるのかを特定する必要があることがわかった。残念ながら、そのような生産体制まで検討することは、今回の研究期間内におこなうことは難しかったので、今回はそのような地方的な差異を、商品区分から研究することは断念し、より超地方的な商品名で分類せざるをえなかった。

いっぽう、貨幣情報については、銀貨の品質が揃っていないために銀の含有量にバラツキがあり、価値が一定しないという問題に加えて、インゴットとして流通し、しかもそれぞれの純度や重量が異なるということが、帳簿の記述から明らかになった。この問題については、背景を理解する必要があるため、8レアル銀貨の特徴についての先行研究のサーヴェイをおこない、その注意点を確認した。そのうえで、銀のインゴットはインゴットとしての品質を記すだけでなく、便宜的に銀貨の単位であるレアルで換算した価格を併記することにした。

(4) データベースの入力結果の分析：今回は、グアダハラ地方、チアパス地方およびメキシコシティの帳簿の部分的なデータベース化を試みた。部分的というのは、まず資料の分量が多く、時間的な制約のために、データとして入力したのが、任意に選んだ箇所に留まったためである。具体的には、1630年代のメキシコ市の1名の貿易商の帳簿のうち、一冊を選び、その1年分について入力をおこなった。それから、グアダハラ地方の18世紀初頭の帳簿、チアパス地方では17世紀の財務記録について、部分的な入力をおこなった。この二冊については、もともとの資料が断片的であることに加えて、データベースの入力項目のすべてが揃ったエントリーばかりではないという制約があるために、より入力項目が多く揃っているエントリーを選別する作業をおこない、そのなかから任意のエントリーを選び出し、時間の許す限り順番に入力した。

以上の手順から明らかなように、データベースの内容は、ごく部分的なサンプルデータという特徴を免れない。サンプルではあるものの、その分析からは、いくつかの重要な結果が得られた。まず、貨幣で表記されているが、実際には貨幣で支払われず、帳簿上の相殺で処理されている場合が多くあることが明らかになった。その場合には、libranza や vale といった書き付けが使われていることが多い。しかもこの書き付けが、商人の使用人によって運搬されていることも明らかになった。したがって、商品の支払いについては、貨幣そのものではなく、人を使って帳簿情報を操作することが多く、実際に銀が流通していることを前提とした従来の理解に対して疑問を投げかける結論が得られた。また、取引される商品については、取引額の小さい商品が非常にたくさんあり、ロングテール型の分布を示すが、これらを集計すると、その合計額が全体の取引の半分以上を超えることもあり、無視できない規模であることが明らかになった。したがって、銀の取引が大きいことは確かであるが、その水面下には、明らかに銀を介さない取引や、銀以外の多様な商品の取引が重要な役割を果たしていることが明らかになった。この成果の一部分は、ハンガリーにおいてラテンアメリカ経済史の研究者を前に報告した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 2 件)

伏見岳志、「南北アメリカ鏡像史の試み」、『立教アメリカンスタディーズ』、査読なし、41、

2019 年、55-74。

伏見岳志、「最初のグローバル通貨：メキシコ製 8 レアル銀貨の盛衰(1)」、『慶應義塾大学日吉紀要人文科学』、査読なし、27、2018 年、211-237 ページ。

〔学会発表〕(計 3 件)

Takeshi FUSHIMI “Demanda de los tejidos locales en Mexico antes de la Independencia” XIX Jornadas Iberoamericanas, Centro Iberoamericano at Universidad de Pecs & Departamento de Espanol at Universidad Catolica Peter Pazmany de Budapest, 2018.

Takeshi FUSHIMI “Falsificacion de documentos contables segun una fuente novohispana” XVIII Encuentro de la Asociacion Espanola de Contabilidad y Administracion de Empresas, Lisboa, 2018.

小原正 “スペイン帝国の植民地統治と文書 中央アメリカのチアパス地方王庫(1540-1549)を事例として、” 日本ラテンアメリカ学会、2017 年

〔図書〕(計 4 件)

吉江貴文・伏見岳志・小原正・清水有子・坂本宏・武田和久・齋藤晃・足立孝・横山和加子・井上幸孝・溝田のぞみ・中村雄祐、悠書館、『近代ヒスパニック世界と文書ネットワーク』、2019 年、398 ページ。

島田竜登・守川知子・伏見岳志・三木聰・川分圭子、山川出版社、『1683 年 近世世界の変容』、2018 年、110-169 ページ。

川分 圭子、玉木 俊明、君塚 弘恭、水井 万里子、薩摩 真介、一柳 峻 夫、澤井 一彰、野村 啓介、柏倉 知秀、宮崎 和夫、雪村 加世子、井上 光子、堀井 優、鴨野 洋一郎、塩谷 昌史、諸沢 由佳、西山 喬貴、小山 内 孝夫、野澤 丈二、伏見 岳志、他、吉田書店、『商業と異文化の接触』、2017 年、293-328 ページ。

TADASHI OBARA-SAEKI, JUAN PEDRO VIQUEIRA ALBAN, El Colegio de México, *EL ARTE DE CONTAR TRIBUTARIOS. PROVINCIA DE CHIAPAS, 1560-1821*, 2017, 788.

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕

伏見岳志「布貿易と植民地-中米にはどんな布が輸入されていたのか」たばこと塩の博物館、特別展示関連講演、2018 年。

ホームページ等

6 . 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名： 小原 正

ローマ字氏名： OBARA, Tadashi

所属研究機関名：慶應義塾大学

部局名：経済学部

職名：講師

研究者番号（8桁）：60715035

(2)研究協力者

研究協力者氏名：なし

ローマ字氏名：なし

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。